

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県豊橋市立南部中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8105

愛知県豊橋市北山町字東浦1番地の4

E-mail nanbu-j@toyohashi.ed.jp

Website http://www.nanbu-j.toyohashi.ed.jp/nanbu-j/index1.htm

幼児児童生徒数 男子 384名 女子 358名 合計 742名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校では、校区内にある「なまず池」の清掃活動を中心として、集めた落ち葉などを肥料として還元するなど、資源のリサイクルを展開し、地域の方とのつながりを大切にする教育活動を実践してきた。また、地域の環境保全だけでなく、世界の子供たちを取り巻く環境にも関心をもつような学習活動も行ってきた。こういった取り組みを、特別活動や総合的な学習だけではなく各教科とも関連させることで、防災・地域活性化・福祉・平和・国際理解などの分野へと追究課題を広げ、自分に係わることとして実践しようとする態度を育成することを目標としている。

具体的には、「南部清掃隊」を柱に、①地域理解に係わる学習、②福祉に係わる活動、③防災に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 地域理解に係わる学習

1年生の総合的な学習の時間では、前期の学習内容として「学校の歴史」、「地域の歴史」、について個人追究やグループ学習を行う。実際に地域の商店街や、隣接する愛知大学を訪問し、自分たちが暮らす地域について知識を深め、「郷土を愛する心」の育成に力を入れている。

※チェック事項1-1、2-1に対応

② 福祉に係わる活動

1年生の総合的な学習の時間では、後期の学習内容として「地域の福祉」を取り上げ、高齢者施設や障がい者施設を訪問し、現地で介助などの体験学習を行っている。また、グループで訪問先までの移動方法を調べたり、1日の行動計画を立案・実行したりする学習活動に取り組んでいる。①、②の学習を個人新聞にまとめ、ポスターセッションでの学習につなげている。

③ 防災に係わる学習

2年生の総合的な学習の時間では、前期の学習内容として、地震や雷、台風や水害などの自然災害がもたらす被害について学習している。こういった災害が発生した場合、自分たちの暮らす地域にはどのような影響があると想定されるか、その予防策と事後対策について知識を深めるとともに、実際に防災危機管理課の職員を招聘して、「目黒巻き」をグループで作成する体験学習を行っている。1年生と同様に、ポスターセッションにしている。

④ 国際理解に係わる学習

3年生の総合的な学習では、1，2年生の時に学習した「地域」から「世界」へと視野を広げる。世界のさまざまな問題に対して個人課題を設定し、修学旅行で関連施設を訪問して現地職員と直接対話を行うことで、課題解決の手がかりを見つけたり、この問題を自分に係わる問題ととらえ、行動を起こそうとするきっかけにしたりしている。また、各教科で関連する内容の単元や題材を通して、学んだことをさらに広げ、深める学習に取り組んでいる。個人新聞にまとめ、ポスターセッションで学び合いにつなげている。



① 地域の商店を訪問学習



② 高齢者施設で福祉体験



③ 避難テントの活用を学ぶ



④ 修学旅行でJICAを訪問

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 自分に係わることとして実践しようとする態度)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、地域美化活動（校区にある公園、神社、校内）をボランティア活動として、年間3回実施している。生徒会を中心に17年間に渡って継続的に行っている活動で、地域の方が結成した環境保護団体と全校から募集した生徒による環境保護活動として位置付けている。

さらに、この活動以外に、1年生では地域理解として「学校の歴史」、「地域調べ」へ発展させる学習を、2年生では「地域防災」、「職業」を学ぶ活動、3年生では修学旅行で訪問した「平和」「貧困」「国際協力」等に係わる施設での学びを、各学年で個人新聞にまとめた。この学習から、共通課題として関係のある生徒をグループに分け、ポスターセッションにつなげている。本年度は、ユネスコスクール豊橋大会の実践発表を、保護者、地域の方、教育関係者を交えてセッション活動を全国から集まった参加者に公開した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教務主任、研究主任、ESD 担当者を中心に、昨年度より「ESD カレンダー部会」、「ポスターセッション部会」、「行事アトラクション部会」、「掲示リーフレット部会」、「現職研修部会」、「研究支援部会」のいずれかに全職員が所属する組織を立ち上げた。校内現職研修と各部会運営を連動して実施することによって、継続的な取組を行うことができた。また、外部講師を招聘して、教職員だけでなく、生徒にも直接指導していただく機会を設けた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクール豊橋大会の事後アンケート結果から、本校が目指す生徒像である「『自分の思いを自分の言葉で語るができる生徒』を具現化している」、「個人新聞とポスター、異学年によるセッション等、ポスターセッションの手法が効果的で深い学びを引き出した。」等の成果が認められた。一方、「教育課程における時間数の確保」、「地域の大人、専門家のネットワークの充実」、「小中の連携のあり方」等が課題として明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

これまでの ESD に係わる教育活動については、主に学校新聞やホームページに掲載することによって発信している。特に、「南部清掃隊」は歴史を重ねており、ほとんどの卒業生が経験している活動として発信を続けている。また、本年度は、本校創立70周年記念行事を行った。主要な行事には「創立70周年記念●●」という冠詞をつけ、第一回同窓生から今に至るまで、南部中学校の教育活動を広く周知することができた。この活動を通して、母校に対する自信と誇りを再認識することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現時点では、「南部清掃隊」のボランティア活動における地域環境保護団体との協働および交流を行っている。「南部清掃隊」は、この地域団体とともに継続している活動である。したがって、この団体自体の存続が大きく関わっている。また、校区内にある大学、高校、聾学校との交流についても、現状では「点」というつながりにとどまっている。今後は、こういった各種学校とのネットワークづくりに対しても、ESDの視点でつながりを再確認していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現時点では、校区の福岡小学校と栄小学校との連携を行っている。両小学校とは、継続的な学習指導の研究における「言語活動の充実」をはかるための「お話しタイム」の実践と、授業中の発言や相手の話を聞く姿勢などの「授業規律(本校では『真・南部5箇条』)」の連携を推進してきた。国外やその他の学校との交流やネットワーク形成については、今後の課題としてとらえており、そのあり方について研究をしていく予定である。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

本校が推進してきた「自分の思いを自分の言葉で語ることのできる生徒」の育成に対し、ESDの視点でこれまでの取り組みを見直したところ、すべての教育活動でつながりがあることに気づくことができた。また、個人の学びを保障し、学びを深めるための「個人新聞づくり」についても、指導する教職員と生徒の両方がスキルアップをすることができた。さらに、ポスターセッションも、異学年集団のグルーピングと保護者や地域関係者を交えて、「小さな社会」を形成する取り組みに発展させることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度のは、これまでのめざす生徒像を継続するとともに、「学び合いを通して自分の学びを高めたり深めたりする生徒」を研究主題に新たに加えた。これは、次期学習指導要領を見据えた教育課程や学習活動、教科指導を研究するとともに、未来を担う子どもたちに期待する姿でもある。さらに、本年度のユネスコス쿨豊橋大会で明らかになった成果をうけて、ポスターセッションの効果的な実践研究（教師支援のあり方、保護者や地域との協働実施など）と、課題である「時間数の確保」に取り組んでいく。活動については、これまでの取り組みを継続するとともに、次の10年を見据えた活動になるよう実践していく。